

平成三十年度 入学試験 第一回午前 国語

京華女子中学校

平成三十年二月一日

□ 次の漢字に関する問いに答えなさい。

※答えは解答用紙にはつきりと書きなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナをそれぞれ正確な漢字に直しなさい。

- ① カイシンの作。 ② テンケイ的な日本人。 ③ 事態をオサめる。
④ シュウトク物を届ける。 ⑤ 人材をトウヨウする。 ⑥ 罪をサバく。

問二 ①～⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 家路を急ぐ。 ② 門戸を開く。 ③ 身を委ねる。
④ 竹馬の友。 ⑤ 季節の便りが届いた。 ⑥ 化合物の組成。

□ 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

あいまいなまま書こうとすると表現上も苦勞します。ある事柄が事実かどうか確認できない場合、「～である」と断定できずに、「～と言えるだろう」とか「～とも言われている」といった表現をすることがあります。よく言えばうまく逃げる、悪く言えばごまかすやり方です。これは使い方次第ですが、少なくとも調べればわかりそうなことは、手間を惜しまず調べて、「～である」と書いたほうがいい文章になります。

「なんだか面倒だな」と思う人もいるかもしれませんが、「I」。どう書こうかあれこれ悩んでいるよりも、調べたり問い合わせたりするほうが早いことが多いのです。また、確認する過程で、その事実だけでなく関係する他のことも知識として得られる可能性があります。

料理にたとえれば、肉ジャガをつくろうと決めていたのに、肝心かなめのジャガイモを買い忘れてしまったときのようなもの。どうしようか、何か別の材料で代わりにならないかな、などと考えているより、ジャガイモを買いに行ったほうが早いし、もともと本当に食べたかったものがつくれます。

では、実際調べるためにはどうしたらよいでしょうか。ここでは、あなたが「世界遺産登録と地域振興について」というテーマで調べてまとめる場合について考えましょう。

調べることに慣れないうちは、効率よく資料を集めたり、人の話を聞いたりすることはできません。何かコツがあるといいのですが、「II」ということわざ通り、残念ながら近道はありません。経験を積んでいくことで、らせん階段を上るように、だんだん調べ方についての知識が増え、感覚が磨かれるのです。

情報を得る手段は数多くありますが、まずはインターネットで検索するという人は多いでしょう。たしかにインターネットで検索すれば、たいいていのことは出てきます。その代わり、たくさん情報があるので、どれを選んだらいいのか迷うのではないでしょう。

もちろん、一つひとつのサイトを地道に比べていけば、そのうち、どれが詳しくて信頼できそうな情報なのかわかるかもしれません。また、ウェブ上の情報は、その出所、元になった情報源が簡単にわかることがあります。あるサイトの情報が、別のサイトの情報をコピーして貼り付けたり参考にしたりしたものであることは日常茶飯事で、さらに情報源をたどっていくと、新聞記事や書籍が元だったということがよくあります。その元の情報を探し確認することも一つの方法です。しかし、それにはとても時間がかかります。かといって最初から書籍や行政の資料に当たろうと思っても、いったいどれに求めている事柄が書かれているのかわからないのがふつうでしょう。

もし教えてくれる先生や教授がいるのであれば、まずは尋ねてみるのが一番です。「日本の世界遺産と地域の活性化について調べているのですが、どういう本や資料にあたったらいいでしょうか」と尋ねれば、直接の答えはなくても、探す方法は教えてくれるはずです。

先生に聞かなくても自分で調べられる、という人もいるでしょう。しかし、自分が調べる方法よりも、もっといい方法があるかもしれないのです。それは、経験や専門的な知識のある人でなければわかりません。自分だけの方法に留まっていると、狭い範囲での調査結果に終わってしまう危険性があります。

例えば、世界遺産登録と地域振興について調べようとするとき、漠然とあれこれ資料にあたってもまとめるときに苦労します。そこで最初にどういう観点でまとめるのかを仮に決めておきます。まとめようとする内容に仮説を立てておくといってもいいでしょう。その仮説を立証するための資料にあたります。

「世界遺産登録は町の経済的な発展を助けるのか」という観点からまとめようと思ったら、まず調査対象となる地域の歴史、とくに近代になってからの地域の人口の増減や商業の様子がある程度調べておきます。それには、自治体が発行している「〇〇町史」などが参考になります。また、最近の情勢についてであれば、さまざまなデータから町をとらえている「〇〇町町勢要覧」が役に立ちます。

もし有名な人物や社会問題、事件などを調べようと思ったら、それについて書かれた書籍はたくさんあります。このなかから信頼できるものを選ぶのは、ウェブ上から信頼できる情報を選ぶのと同じように大変です。さきほどお話ししたように指導者のアドバイスが有効ですが、もしアドバイスを受けられないような場合は、その情報がオリジナルであることが信頼するための一つの基準になります。

本の巻末には、その本を書くために使用した「参考文献一覧」がついていることがあります。専門的な本ほど、記載のあるものが多いので、まずはそこを見ることをお勧めします。同じようなテーマを扱ったものと詳しい本があるとか、どの本でも参考資料に挙げられている重要な本がある、ということがわかります。

(川井龍介著『伝えるための教科書』(岩波ジュニア新書)による)

問一 I・II にあてはまることわざを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---------------|----------|----------|
| ア 犬も歩けば棒にあたる | イ 急がば回れ | ウ 河童の川流れ |
| エ 案ずるより産むがやすし | オ 二階から目葉 | |

問二 ——— 線部①「インターネットで検索する」とありますが、インターネットの情報の問題点はどのようなことですか。著者が説明している問題点を三十字以内でまとめなさい。ただし、句読点や記号も一字と数えます。

問三 ——— 線部②「どれが詳しく信頼できそうな情報なのか」とありますが、信頼できる情報かどうかを判断するための基準として著者が挙げていることを、文中から十五字で抜き出さなさい。ただし、句読点や記号も一字と数えます。

問四 ——— 線部③「それ」が指す内容を文中の言葉を使ってまとめなさい。

問五 次の中から本文の内容にあうものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア はっきりしないことがあっても、「～である」と書いたほうがいい。
- イ 情報を得るためには、まずはインターネットで検索するべきである。
- ウ ウェブ上の情報は信頼せずに、元の情報を探し確認せねばならない。
- エ 先生に聞くことができるのなら、まずは尋ねてみるのが一番だ。
- オ 人に聞かなくても自分で調べることができるなら、その方がいい。
- カ 最初にどういう観点でまとめるか仮に決めた上で調べると、やりやすい。
- キ 何を調べるにも、まず近代になってからの地域の歴史を調べておく。
- ク 本の巻末には必ず「参考文献一覧」があるので、すべて目を通すといい。

□

次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

震災、台風、豪雨。自然はわたしたちの日々の暮らしに、ときにすさまじい力によって襲いかかります。自然のこの脅威を前にして、わたしたちは、人間がいかにちっぽけな存在か、人間がつくったものがいかに脆いかを、思い知らされます。

けれども、大災害のときにもつとつよく思い知らされるのは、社会のなかでわたしたちがいかに無力な存在になってきているか、です。えっ、人間は技術の進歩によって力をどんどん蓄えてきたのではないの？ さらに技術を高度なものに進化させれば、自然災害だって克服できるのではないの？ そんな疑問がすぐに頭をよぎるかもしれません。

でも、ちよっと思ひ出してください。東日本大震災のあの日、(被災地ではなく)東京で起こったことを。揺れや停電で電車は止まってしまいました。そして東京で働く多くの人が家に帰れなくなり、会社に泊まったりしました。歩いて帰るにも七時間、八時間とかかった人が多かったようです。それだけではありません。浄水場が放射能で汚染され、水道の水も一部で飲めなくなりました。それでペットボトルの水を求め、みながコンビニやスーパーに走りまわりました。そしてすぐに品切れ状態になりました。

「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増す」——これは寺田寅彦という物理学者のことばです。彼は、昭和一ケタの時代にすでにこんな警告を発していました。

【A】 単細胞動物なら組織を切断しても各片が別のかたちで生き延びるが、高等動物は分化がいちじるしく発達しているので、一部の損傷が系全体に致命的なダメージを与えてしまう。

【B】 が、重力に逆らい、風圧水力に抗うような施設をつくりだすにつれて、人は建物の倒壊や堤防の崩壊で命を危うくするようになり、災害の度は逆に大きくなっていった、ということです。

【C】 文明よりはるか以前、人びとが洞窟に住んでいたとき、たいいていの地震や暴風は洞窟のなかに潜んでいればしのげた。粗末な小屋をつくって住むようになって、倒壊しても吹き飛ばされても、すぐに復旧できた。

【D】 文明社会もこれとおなじで、局所での災害がさまざまなかたちで全体に波及しやすい、と述べています。

【E】 そこからさらに、彼はこう言います。文明化は人びとの連携や結合を強め、緊密にしてゆく。

寺田のこれらの言葉にあるように、現代の都市生活はじつはたいへんに脆い基盤のうえに成り立っています。ライフラインが止まれば、人は原始生活どころかそれ以下に突き落とされるのです。自然が残る土地であれば、溪流の水が飲めます。土や石ころや枝葉で雨露をしのぐ工夫もできますが、都市の河水は汚くて飲めない、アスファルトに覆われた路上には土も石ころもない。わたしたちはなすすべもなく、ライフラインの復旧をただただ待つしかないのです。道を歩いていても、頭上高くそびえる高層ビルや、空中を走る高架道路が落下して大災害になることもあります。十七年前の阪神・淡路大震災では、それがじつさいに起こりました。

原子力発電所の事故、高架道路の落下、「帰宅難民」……。こういうことが過去にじつさいに何度か起こっているのに、その教訓もいつしか忘れ、またおなじことがくりかえされました。さいわい高架道路の落下だけは今回は起こらずにすみました。

なぜ、過去の教訓が活かされてこなかったのでしょうか。なぜ、歩いて七、八時間かかるようなところから職場に働きに出るという奇妙なことがずつとあたりまえのことに思われ、このあたりまえがけっしてあたりまえでないことが、災害時にはじめて垣間見えても、それもまたすぐに忘れられるというようなことがくりかえされてきたのでしょうか。それを知るには、自然の脅威の前で人はちっぽけな存在であるばかりでなく、社会のなかでも人はどんどん無力になってきているという、冒頭で書いたことを、さらに問いただしておく必要があります。

この国のほとんどの人は、ふだん、飢餓や戦争をはじめとして、生存が根底から脅かされるような可能性を考えないで生きています。生存そのものが危うくなるような状況をまったくと言っていいほど想定しないで暮らしています。なんとなく「だれかがやってくれる」と思っている社会に生きているからです。わたしたちは、一見とてもよくできた社会で暮らしています。電車は数分遅れただけでニュースになるくらい正確に運行しているし、停電や郵便物の遅配もめったにありません。深夜もたいいていのところは危険も感じずに歩けるし、突然体に変調をきたしても病院に駆けつければなんとかしてもらえます。生活保護や福祉、流通や防犯・防災など、社会にはいろんなセイフティネットの仕組みが備わっていて、過去の時代になかったような安心で安全な社会に暮らしているのが、わたしたちです。

けれども、このように暮らしやすい環境のなかで、知らないあいだに、じぶんたち自身がとんでもなく無能力になっているということには、なかなか気づきません。そしてそのことが、こんどの震災のような大災害のときにはむきだしになります。先の例にもどれば、水道が止まるだけで、眼の前の川には水がたっぷり流れているのに、雨はしばしばどっさり降るのに、それらを飲める水に変えることが、個人としてのわたしたちにはできません。浄水場になにかトラブルが発生すればとたんにアウト、なのです。

そのために、先人たちは、これらの「いのちの世話」を確実に代行するプロフェSSIONナルを養成し、またその「世話」の場所を公的な施設として整備してゆきました。これは、社会が「近代化」するときの大事な一面です。めんどろな排泄物処理は文字どおりみずから手を汚さなくても、「下水道」というかたちで行政がやってくれる。病気になれば病院に行つて、医師の診断と治療を受ける。そのあとは看護師に看病される。夜に「火の用心」とみなで交替で地域を回らなくても、消防士・警察官が見回つてくれています。もめ事がややこしくなれば弁護士を立てることができます。

たがいのいのちの世話をしあう、そんな大事なことを能力の高いプロが代行してくれる（もちろんそのために税金を払い、サービス料を支払う義務が生じますが）、そんな「安楽」な社会に何代にもわたって暮らしているうちに、しかし、わたしたちはそれらをじぶんでやる能力を失ってしまいました。かつてはだれもがそれができるよう、家族に、あるいは地域社会のなかで鍛えられてきたものですが。

（鷺田清一著『人生はいつもちぐはぐ』〈角川文庫〉による）

問一 【A】と【E】は文の順序が違っています。論理的に正しい順序に並べかえて、記号で答えなさい。ただし、【E】は三番目にくるものとします。

問二——線部①「原始生活どころかそれ以下」とは具体的にどのような状態ですか。文中の語を使って二十字以内でまとめなさい。

問三 線部②「あたりまえでないこと」とはどのようなことですか。文中から三十五字で抜き出し、初めと終わりの五字を記しなさい。ただし、句読点や記号も一字と数えます。

問四 線部③「知らないあいだに、じぶんたち自身がとんでもなく無能力になっている」のはなぜですか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「いのちの世話」を能力の高いプロが代行してくれるようになったから。
イ 大災害がいままでになかったほどのすさまじい力で襲いかかってきたから。
ウ 人間が高等生物となったため、一部の損傷が致命的なダメージをもたらすから。
エ 現代の都市が複雑化し、大災害に非常に弱い状態になってしまっているから。
オ 家族や地域社会がおとろえ、人間性を高めることができなくなってきたから。

問五 ——— 線部④ 「とりあげる」・⑤ 「見送る」・⑥ 「細心の」の文中での意味として最適なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

- ④「とりあげる」
 ア 人からうばい取る
 イ 手に取つてひろう
 ウ 介抱かいほうして産ませる
 エ 評価して採用する
- ⑤「見送る」
 ア 訪ねてきた人が帰るのを送る
 イ 亡そうそうくなった人の葬送そうそうをする
 ウ 何もしないでただ見ている
 エ 旅に出る人の出発を見守る
- ⑥「細心の」
 ア びくびくしながらの
 イ いやだと思ひながらの
 ウ 胸をいためた
 エ 十分配慮した

問六 ――線部⑦「これらの『いのちの世話』を具体的に述べている部分を文中から抜き出し、初めと終わりの五字を記しなさい。ただし、句読点や記号も一字と数えます。

